

ものづくりの記録

民族文化映像研究所自主製作2作品

新潟県岩船郡朝日村奥三面

山人の丸木舟

1984年／32分／自主制作

2017 2/4(土)



沖縄県立博物館・美術館
美術館講座室

埼玉県秩父郡東秩父村御堂萩平

竹縄のさと

(たかなわ)

1979年／36分／自主制作

海燕社の小さな映画会 2017

日時:2017/2/4(土)
場所:沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室 (1F)
時間:17:45開場、18:15開始 (19:45終了)
※途中入場はできません。
料金:1,000円(要予約)
※先着順、定員に達し次第、締め切らせていただきます。
電話:098-850-8485(海燕社/カイエンシャ)

【山人の丸木舟】

奥三面(おくみおもて)は、広大な朝日連峰から流れ出る三面川の河岸段丘上にある。集落の足元を流れる三面川を渡って、人々は田畑を耕作し、山へ入って山のものをもって暮らしてきていた。その川をめぐる生活に舟は不可欠であり、共同作業で丸木舟を作って共有物とした。第二次大戦後、橋がかけられ、舟は作られなくなった。これは、舟作りの経験者、高橋利博さんと若い小池昭巳さんが行った舟作りの記録である。山の生活者たちが

舟を作る。これは奥三面だけでなく、下北半島のマタギの村などでも行われていたことであった。舟の歴史を考えるうえでも見落とすことのできないものである。

【竹縄のさと】

東秩父村は秩父山地の東側にある集落で、昭和20年代まで盛んに竹縄が作られていた。竹縄は丈夫で弾力性にとみ、また水に強い。萩平の人々は、米のとぎ汁や煮た大豆をまいて竹林を大切に育ててきた。竹伐り旬(最も適した竹が得られる期間)は、7月末から8月初めに3日間ほどしかない。この間に新子(その年に生えた竹)を伐り、火にあぶって油抜きをし、細く小割りにする。そして乾かして、秋まで火棚の上や屋根裏に保存する。縄にする作業は秋から翌年春までの農閑期に行う。秩父の山村の人々にとって、竹縄は日常生活になくてはならないものであると同時に、生活の糧を得る重要な手段でもあった。

Special thanks from Kaiensha inc. -----

「海燕社の小さな映画会2017」へのご支援、ありがとうございました。

糸満市にある4つの木工房のシェア工房
mitchai
糸満市米須147 mitchaiwws@gmail.com

工房 地球のかげら
木工職人と環境教育ファシリテーター
古我知 毅
八重瀬町字友寄 101 番地 tel:090-9782-7312

北谷竹細工
竹細工職人 津嘉山寛喜
沖縄市八重島3-4-7 TEL.098-937-1474